ニッポンクラウドワーキンググループは
日本のクラウドの未来を考えます

NIPPON Cloud Working Group

第3回テーマ 流れる雲(クラウド)よりはやく!

グランドクラウドへの取り組み

アジェンダ

1. 弊社のご紹介
2. 弊社のクラウドへの取り組みについて
3. Samurai Cloud 連携について
4. 今後の課題

ニッポンクラウドワーキンググループは
日本のクラウドの未来を考えます

NIPPON Cloud Working Group

1. 弊社のご紹介

弊社ハマゴムエイコムのご紹介

- 創立** 1970年
横浜ゴム(タイヤメーカー)のシステム部門が
分社化した100%子会社
- 資本金** 1億円
- 売上高** 46.5億円(2009年度)
- 従業員数** 402名(2010年4月現在)
- 事業所** 横浜事業所(本社)
新橋事業所
沼津事業所

ご提供サービス

システム開発

【製 造】

企画、購買、生産技術、生産管理、在庫、原価、物流、販売代理店
海外（生産、物流、販売、代理店）、会計、人事 etc

【金融・保険・証券】

融資支援システム、コールセンターシステム、ネットバンク、地銀基幹システム、
都銀統合運用管理システム、損害保険代理店システム、証券取引所情報システム

【流 通（アパレル）】

受発注管理システム、商品管理システム、物流システム、配送システム、在庫管理システム、
顧客情報管理システム

【官公庁・自治体】

法務省不動産登記情報システム、中小企業共済システム、人事給与システム、
土木積算システム、税務ライツシステム、水道料金収納システム、電子決裁ワークフロー

分野および工程別による保有／経験技術

◆弊社における分野および工程別による保有／経験技術をご紹介します

ニッポンクラウドワーキンググループは
日本のクラウドの未来を考えます

NIPPON Cloud Working Group

2. 弊社のクラウドへの取り組みについて

弊社がSaaSビジネスに参入した背景

SI案件の先細りとビジネスレイヤーの低層化(の可能性)

今までのビジネスレイヤー

これからのビジネスレイヤー？

弊社サービスのご紹介

弊社のSaaSサービスのご紹介

1. CMS & グループウェア

- ・Net Commonsをクラウド環境に構築し、運用、保守を提供するサービス
- ・すべてOSSで構築

2. メール誤送信防止

- ・ホワイトリストに登録されていないアドレスに送信する場合に、上司承認が必要となるメールゲートウェイ機能
- ・JavaのOSSフレームワークを組み合わせた、当社独自フレームワークを利用

3. クラウドバックアップ

- ・通信、レプリケーション、バックアップのソフトにOSSを利用
- ・JavaのOSSフレームワークを組み合わせた、当社独自フレームワークを利用

3製品すべて、設計～開発、リリースまでで3ヶ月程度

2012年の計画

クラウドでのトータルソリューション提供に向けた地盤づくり

1. 既存SaaSの機能追加、機能拡張

- ・他社との差別化
- ・価格ラインナップ(より単価の高い製品を目指して)

2. ERPのクラウド展開／他システムとの連携実現

- ・トータルソリューションの提供(より高度なアプリケーション領域を目指す)
- ・トータルなソリューションの実現には複数システムの組み合わせ必要

3. ヘルプデスク、サポートなどのサービス充実

- ・どういうサポートがいいのか？
- ・料金体系などは？

4. 請求の方法の仕組み作り

- ・従量課金の計算方法(いつ起点？、いつ締める？など)
- ・請求書の発行(クレジット決済？電子決済？請求書？など)

2012年の計画

ニッポンクラウドワーキンググループは
日本のクラウドの未来を考えます

NIPPON Cloud Working Group

3. Samurai Cloud 連携について

クラウド市場の状況

サーバのハウジングからクラウド型へ／ASPからSaaSへ

クラウドベンダーの状況

クラウド業者の増加

海外クラウドベンダーとの競争

クラウドの価格競争

SI、ソフトウェアベンダーの状況

データセンターを持っていないソフトウェアベンダーでも参入可能

OSSの活用などにより、短期間、低コストでサービス化の実現が可能

ユーザの状況

サービスの低コスト化による利用者の増加(中小・零細企業など)

企業ユーザからコンシューマまで利用者層が拡大

ベンダー

ユーザのニーズへの対応、差別化が重要
サービスの乱立？
薄利多売

ユーザ

ユーザの選択肢が広がってきている。
低コストでシステムの利用が可能

Samurai Cloud の可能性

他クラウド上の他システムとの連携

従来の1社択一のビジネスモデルから複数社で構築するソリューションへ変わっていくのではないかと？

そうすると、ユーザID、UI (User Interface)、データの三位一体連携が重要。

➡ クラウドサービスの統合クラウド、すなわち「グランドクラウド」の実現

弊社のSamurai Cloud 連携対応について

弊社SaaSのSamurai Cloud 連携の実装

STEP 1. 弊社製品へのSamurai Cloud の実装(2012年5月予定)

- ・JavaアプリケーションでのSAML対応
- ・JavaアプリケーションでのOpenSocial対応(REST-API作成など・・・)

STEP 2. システム間のデータ連携(2012年12月までに・・・)

- ・実装方法は未定。おそらくゴリゴリつないでしまうと思います(時間、工数の問題)。
⇒本来はデータ連携基盤があった方が柔軟性も高く、他社サービスとの連携も可能
- ・Talend、Casandra、Hadoop・・・(?)
⇒ノウハウはNCWGで共有します。

STEP 3. Cloud版のAppストアみたいところへの展開(?)

- ・Appストア的にシステムをインストールできれば、ユーザが更に使いやすくなる
⇒ERPなんてそもそもインストールすれば使えるんじゃないっけ??
という疑問はあります・・・。

ニッポンクラウドワーキンググループは
日本のクラウドの未来を考えます

NIPPON Cloud Working Group

4. 今後の課題について

今後の課題

技術的な課題（認証連携はSamuraiCloud連携でクリアできている前提）はなにがあるの？

- ・セキュアなクラウド間データ通信（通信の暗号化など）
- ・セキュアなデータ保管（暗号化など）
- ・そもそもデータの受け渡し方式（I/Fの標準化？）
⇒ これから勉強していきます。。。

各社のアプリケーションをユーザ利用した場合って、サポート窓口がアプリケーション毎に業者がことなることになるの？

- ・サポート窓口は一つが望ましいです。

支払先はどうなるの？

- ・請求は1つの業者からくるのが望ましい。支払先も1箇所がよいです。

ニッポンクラウドワーキンググループは
日本のクラウドの未来を考えます

NIPPON Cloud Working Group

おわり

ご清聴ありがとうございました。